

## 敬愛大学総合地域研究所 第5回公開シンポジウム報告

## フード(食)とアグリ(農)を子どもにどう教えるか！

敬愛大学総合地域研究所長

村川 庸子

## はじめに

本日はお忙しい中、私どものシンポジウムに足をお運びいただきまして有難うございます。

敬愛大学総合地域研究所は、2004年に設立された比較的歴史の浅い研究所です。2005年に、国際学部が佐倉市物井から稲毛に移転してまいりまして、それを機に、それまで稲毛キャンパスにあった経済文化研究所と、佐倉キャンパスの環境情報研究所を統合して新たな歩みを始めたところです。

設立当初から、教員の研究支援ばかりではなく、地域に開かれた研究所であることを目指し活動を続けております。毎年6月に開催してきましたこのシンポジウムも5年目となりましたが、これもその一環ということになります。

第1回(平成22年)から3回のシンポジウムは「新しい千葉学への道」と題しておりました。第1回は「東京窮民の下総牧開墾」と「工場立地からみた千葉県工業の特質」、第2回は「サンフランシスコ市におけるチェーンストア規制——その運用と近隣商店街に対する影響」と「街に元気を——市民とつくるパラソルギャラリー」、第3回は「千葉県の観光の現状と課題——新たな可能性を求めて」と「千葉の地域経済活性化——アクアラインや成田空港の活用を中心に」ということで、当研究所の設立の趣旨にあるように、地元千葉と世界の双方を視界におさめた、グローバルな視点を大切にまいりました。第4回は迷いながらも千葉」をより相対化するべく、「千葉学への道」というタイトルを外して、「ICT社会の未来と千葉」について考えました。そして、第5回となる今年、「食と農」を採り上げることになりました。

本日は、本学の国際学部の教授の竹内先生が会長をお務めになる日本子ども社会学会との共催となっております。また、千葉県千葉市教育委員会の後援もいただいております。

実は、今回のシンポジウムは、私が所属しております本学の国際学部で数年前から行ってきた「国際学部でアグリ」という活動を通して得た知見を活かしたものであります。皆様にお配りしたパンフレットは学生と一緒に行いました活動を記録したものです。

この活動は、①学生の意欲を喚起したい、②できれば、就職に役立たせたい、③日本の国際化に対応できる、そして他の大学の国際学部にはない教育を目指したいということで取り組んだものでございます。

この活動を通して出会ったものの一つが、本日のシンポジウムのテーマとさせていただきます。

きました「食育」でした。3人の先生方の中で、「食農」とい言葉をお使いの方もいらっしゃいますが、常々学生には、“Something different”、何か違うものを目指してほしいというような話はしているのですが、この3人の先生方は今までお話を伺った大勢の方の中でも特に「何かが違う」と感じた方でした。

簡単にご紹介させていただきます。一番最初のスピーチを行っていただきますのが、紺野和成氏、日本政策金融公庫の千葉支店長をなさっておられます。私は大綱高校で、紺野先生が模擬授業をなさっていらっしゃるところを拝見して、学生の積極性を引き出すこと、これは大学でも難しいところがございますが、それを見事にやっておられて勉強させていただきました。

三幣貞夫先生は、南房総市の教育長をなさっておられます。南房総市で長い間、食農教育に取り組みご本も出していらっしゃいますので、ご覧いただきたいと思います。

最後は、熊澤幸子先生で、東京成徳大学の特任教授でいらっしゃいます。元昭和女子大にいらっしゃいまして、私は一度しかお目にかかっているのですが、そのときに2時間も座り込んでお話をしてしまっ、すっかり魅了されてしまった素敵な先生です。

ではさっそく始めさせていただきます。よろしく願いいたします。

むらかわ・ようこ Yoko Murakawa

---

## 第5回公開シンポジウム 「フード(食)とアグリ(農)を子どもにどう教えるか！」

平成26年6月28日(土) 13:00～15:30  
於 敬愛大学稲毛キャンパス3号館3301教室

---

### 〈プログラム〉

開会の辞：村川 庸子（総合地域研究所長）

#### 第1部 「政策金融の現場から農育を」

講 演：紺野 和成（日本政策金融公庫千葉支店長）

#### 第2部 「子どもに食と農をどう教えるか」

講 演：三幣 貞夫（南房総市教育委員会教育長）

#### 第3部 「食育と食環境」

講 演：熊澤 幸子（東京成徳大学特任教授）

#### 総合討論

コメンテーター：田中 未央（敬愛大学国際学部准教授）

池谷 美佐子（敬愛大学国際学部准教授）